



いつもありがとうございます
お役に立てるいろいろな話題をご案内しています

2015年 第3号
株式会社 ナプロアース 総務部
TEL (024)573-8091
FAX (024)573-8092



経営者に必要な正当性の物差し

- JR東海会長 葛西敬之（10年8月30日号 当時・会長） -

経営者に必要な正当性の物差し

思い出すのは、国鉄民営化のために力を尽くしていた頃のことだ。政府と国鉄は経営崩壊後も、公社制度の維持や漸進的改革の案にしがみついていた。政府はときに分割民営化案を駆け引きとしてちらつかせ、経営陣への責任転嫁を行おうとしていた。私たちはそれを逆手にとって、政府・国鉄の再建計画案を否定し、分割民営化を自分たちから本気で提起した。すると世論の支持が私たちに集まり、攻守が逆転する。

それは、いま思えば自己否定の中に活路を求めるタレイランの手法がヒントになっている。

権力を持ち始め、何かを決定する立場になるにつれて、人はその判断について大きな責任を持たなければならなくなる。そのときに自分の「出世」や「立場」をいかに保つかと考えるのではなく、自らにとっての合理性と正当性の物差しをはっきり持つこと。この一点が常に動かなければ、たとえ多くの人たちに反対されても判断が揺らぐにすむ。

私にとって、それは国鉄経営の将来にとって何が必要かを考えることであり、さらには国民の利益にとっての正当性を見据えることだった。

小宮一慶氏が分析・解説

経済は人を幸せにする道具であって、目的ではない。だから、人が幸せになるということはどのようなことか、経営者は深い人間観を持ち合わせていないと、事業を長期に成功させていくことは難しい。

かつて松下幸之助は、リーダーに必要な不可欠なことのひとつとして「人間観」を挙げた。お客様も人間、そして部下も人間である。人間に対する洞察力があるからこそ、お客様が望んでいることや、部下がやりたいことはじめて理解できる。葛西氏も常日頃から人間性を養い、「最後は信義と誠実がなければならない」といった「ぶれない軸・価値観」を持っている。

そして、そうした価値観を大切にしながら成功体験を積み重ねるなかで生まれてくるものが「信念」と「エネルギー」だ。「自分たちの事業を通じて広く社会に貢献したい」「一緒に働いている仲間を幸せにしたい」と言った信念を持っている点も、成功した経営者に共通している。

フジテレビオンラインより



和食のマナー

和食店に出かける前にチェック！

- 肌の露出の少ない服を着る。正座しにくいタイトスカートははかない。
- 香水は控えめに。料理の繊細な香りも楽しみの1つ。
- 大ぶりの指輪や長いネックレスはしない。食器を傷つけるリスクあり。
- 長い髪はまとめて清潔感を出す。
- 夏もストッキングをはく。素足はNG
- 冬でもブーツでは行かない。



お花見の由来

日本人はなぜ桜を愛するのでしょうか？その歴史は古代神話以前にまでさかのぼります。八百万の神様の中に、山や田の神「サ」神が存在しました。「クラ」とは神が鎮まる座を意味し、サ神がその根元に鎮座したとされる木を「サクラ」と呼ぶようになりました。サ神を信仰する古代の農民は桜の木に供え物をし、豊作を祈り、宴を行いました。この行為は遺伝子として連綿と受け継がれ、日本人が無条件で桜を好む理由の1つになったのではないかと考えられています。

古代では呪術的な要素が強い桜の木下での宴が、奈良時代には花を楽しむための行事と変化しました。「万葉集」には桜を詠んだ歌が残されており、当時の貴族が桜を好んでいたことがわかります。

江戸時代になると、お花見は庶民の娯楽として定着し始めます。

